

用語の説明

基準地震動 S_s

新耐震指針に基づき、敷地周辺の地質・地質構造並びに地震活動性等の地震学及び地震工学的見地から施設の供用期間中に極めてまれではあるが発生する可能性があり、施設に大きな影響を与えるおそれがあると想定することが適切な地震動のことです。

マグニチュード

地震のエネルギーの大きさを表す尺度で、地震そのものの大小を示します。

ガル

地震によって起こる揺れの大きさを表した加速度の単位です。揺れの大きさを震度より正確に表し、一般にガル数が大きいほど震度も大きくなります。

応答スペクトルに基づく地震動評価

地震による揺れは一般に地震の規模が同じであれば、距離とともに小さくなるため、地震のマグニチュードと震源からの距離により地震の揺れを評価する手法のことです。

断層モデルを用いた手法による地震動評価

震源の広がりを断層面としてモデル化し、波の伝わり方、敷地の状況を考慮して、敷地での揺れを直接評価する手法のことです。震源近傍における地震動特性をより詳細に表せる半面、断層のモデル化、地震動評価には多くの情報を必要とします。

建物・構築物の耐震安全性評価

建物・構築物や地盤の特性を適切に表現できるモデルを設定し、地震応答解析により耐震壁のせん断ひずみを算出し評価することで安全性を確認します。

せん断ひずみ

耐震壁が水平方向の力を受けた時、耐震壁の変形量を耐震壁の高さで除した値です。

機器・配管系の耐震安全性評価

機器・配管系の特性を適切に表現できるモデルを設定し、地震応答解析により発生応力、制御棒の挿入時間を算出し、構造強度の評価、動的機能維持の評価を行い安全性を確認します。

原子炉建屋基礎地盤の耐震安全性評価

原子炉建屋を支持する地盤が、地震に対して十分な抵抗力があることを試験や解析を実施して評価します。

津波に対する安全性評価

想定される津波のシミュレーションを実施し、津波による海面の上昇量と下降量を推算することで、津波に対する発電所の安全性を確認します。